

コンパルソリー 幕板 FJ180・210

■設計施工時の注意

本製品は、外気温や日射による温度変化によって生じる長さ(L寸法)の変化量が、木材やサイディング材と比較して大きいので以下の点にご注意ください。

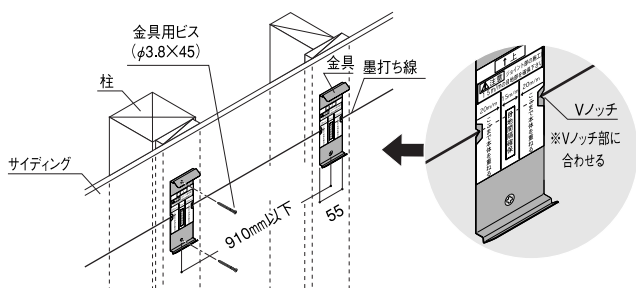
- 本製品は、金具を使用する施工「金具施工(オープンジョイント工法)」となっております。金具のピッチは910mm以下とし、本体および出入隅のジョイント部には、必ず金具がかかるように割り付けてください。
- 本体どうしのジョイント部ならびにコーナー部の目地は必ず15mm確保してください。
目地を確保しない施工(突付け施工)や、目地部に誤ってシーリング材を充填することは絶対に避けてください。(施工後の製品異常の原因となります。)
- 本製品(幕板FJ)とコンパルソリー付柱との取合いは、必ず『幕板勝ち』となるように設計・施工してください。(参考納まり図参照)
- 天端のシーリングは製品上部の軟質パッキンにより必要ありませんが、必要に応じて(サイディングの凹凸で隙間が発生する場合等)天端シーリングを施してください。



- 本製品は、サイディング仕上げあるいはモルタル仕上げの上から施工することを基本としております。
- 本製品を取付け後にサイディングおよびモルタル仕上げを行うことは避けてください。

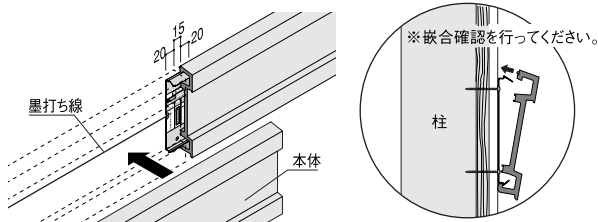
■金具施工(オープンジョイント工法)施工要領

- ①幕板を取付けようとする部分に墨打ちを行い、その線に合わせて金具を取付けます。金具取付けピッチは910mm以下とし、取付けビスは本体に同梱の金具用ビス(φ3.8×45)を使用してください。



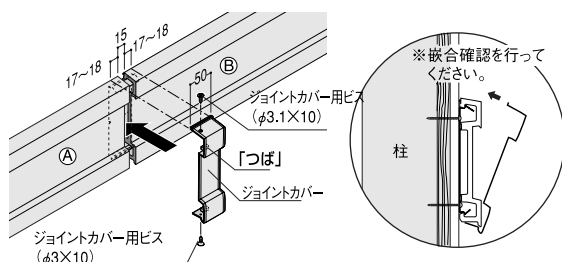
- 外壁下の木下地を確認のうえ、木下地にしっかり固定してください。
- 本体どうしのジョイント部には、必ず②のように金具を割り付けてください。

- ②ジョイント部は1個の金具に左右の本体あるいは出入隅を嵌合させます。金具は巾が55mmありますので、左右とも20mmずつ金具がかかるようにし、15mmの目地部を確保してください。



- この寸法出しを正確に行わないと施工後の温度変化による本体の長さ変化により金具から外れたり、蛇行の原因になります。

- ③ジョイントカバーを嵌合させます。ジョイントカバーの巾は50mmありますので、(A)目地がジョイントカバーの中央にくるよう、幕板(A)(B)にそれぞれ17~18mmかぶせ、同梱のジョイントカバー用ビスにて、2箇所しっかり固定してください。

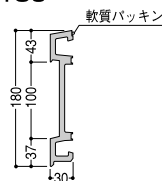


ポイント

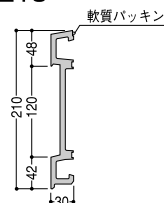
ジョイントカバーの「つば」を利用してジョイントカバーのビス打ち側の本体に接触するように取付けてください。

■製品図 S=1/10

●FJ180



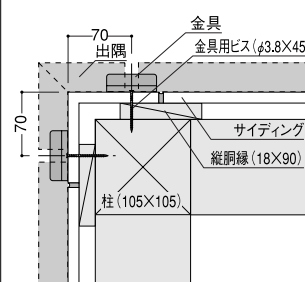
●FJ210



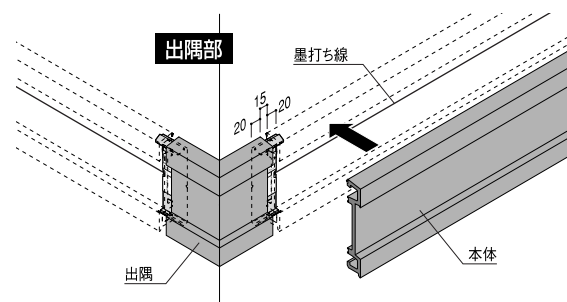
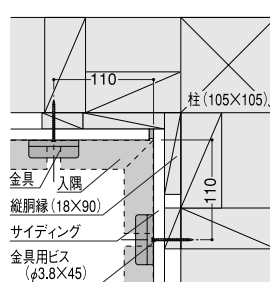
■参考納まり図(ビス施工)

以下の位置に出入隅部の金具を取付けてください。

●出隅部の金具取付け位置

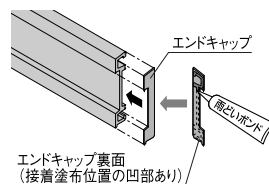


●入隅部の金具取付け位置

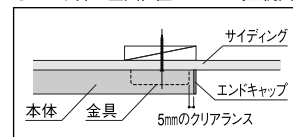


■エンド部の処理

- エンド部の処理は「エンドキャップ(別売品)」を別途お求めください。
※取付けは、接着剤(雨どいボンド「現場調達品」)を使用し、エンドキャップと金具との取合いは5mmのクリアランスをとってください。

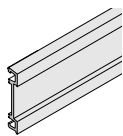


●エンド部の金具位置について(上視図)



■構成部材

●本体



●金具

●ジョイントカバー
防水テープ付

●ビスセット

●ジョイントカバー用ビス
頭部着色 (φ3×10)

別売部材

●出隅



●入隅

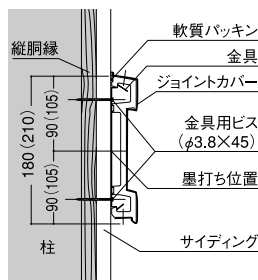
●金具
(ビス入)●エンド
キャップ●ジョイントカバー
防水テープ付

(ビス入)

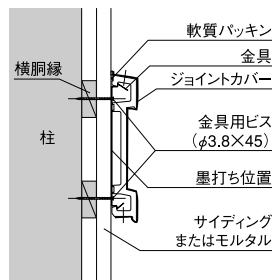
■参考納まり図(金具施工)

●縦胴縁の場合

※ビス止め部は、以下のように木下地を確保してください。

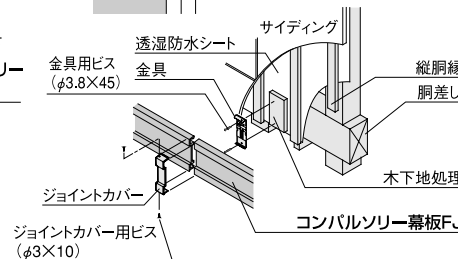
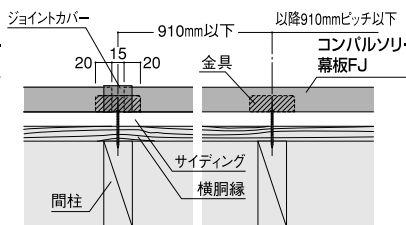
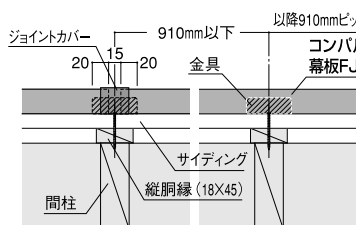
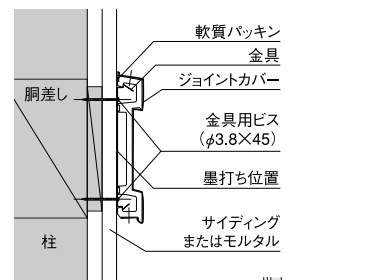


●横胴縁の場合



●幕板が胴差しにくる場合

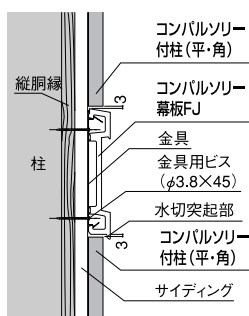
※縦胴縁割付け上、端部が間柱上部に位置しない場合でも胴差し等を利用し、木下地をつくりビスがきくようにしてください。



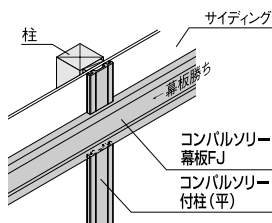
●ジョイントカバー施工ー付柱との納まり例

付柱との取合い

- コンパルソリー付柱(平・角)との取合いは下図のように3mm以上のクリアランスを設けてください。
- 製品下端の水切突起部の内側に付柱(平・角)が納まる設計となっておりますので、3mm以上のクリアランスを設けて施工してください。(突付け施工は避けてください。)

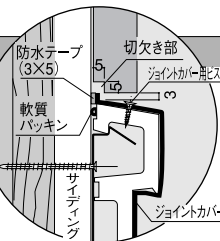
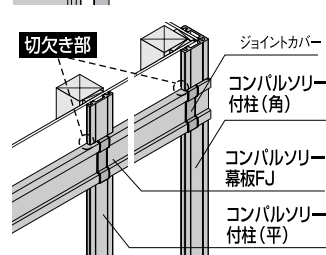
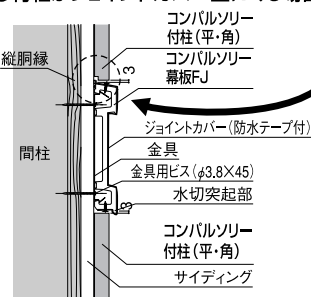


※突付け施工は避けてください。



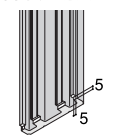
※幕板FJとコンパルソリー付柱との取合いは、必ず「幕板勝ち」となるように設計・施工してください。

●付柱がジョイントカバー上にくる場合

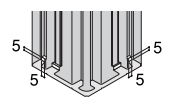


※ジョイントカバー上に付柱がくる場合は、上図のように付柱の裏面を切り欠いて(5mm×5mm)付柱がジョイントカバー天端に当たらないようにしてください。

●付柱(平)裏面切欠き部



●付柱(角)裏面切欠き部



⚠ 注意 銅板屋根上のコンパルソリーの使用制限について

※コンパルソリー全製品が対象となります。

- 銅板屋根の上部にコンパルソリーを使用しますと、銅板からの反射光(太陽光がレンズ効果でより強くなった光)が、コンパルソリーに当たり、熱変形をおこす危険性があります。よって銅板葺き屋根の上部には、使用しないでください。
- どうしても銅板屋根上部に使用する必要がある場合には、銅板が緑青に変化するまで待ってから、その後にコンパルソリーを取付けてください。

